

マーケットレポート

中国10月主要経済指標は鈍化傾向が続く

～固定資産投資が2カ月連続でマイナス～

◆概ね市場予想通り、前月からは減速

14日、中国の10月分の経済統計が公表されました。小売売上高は前年同月比+2.9%と、概ね市場予想通り(同+2.8%)となり、前月の+3.0%から小幅に減速しました。5カ月連続の減速です。年初来で見ても、オンライン販売が堅調に推移したものの、前年同期比+4.3%と、前月の+4.5%からは小幅減速となりました。また工業生産は前年同月比+4.9%と、市場予想の同+5.5%を下回り、前月の+6.5%から減速しました。

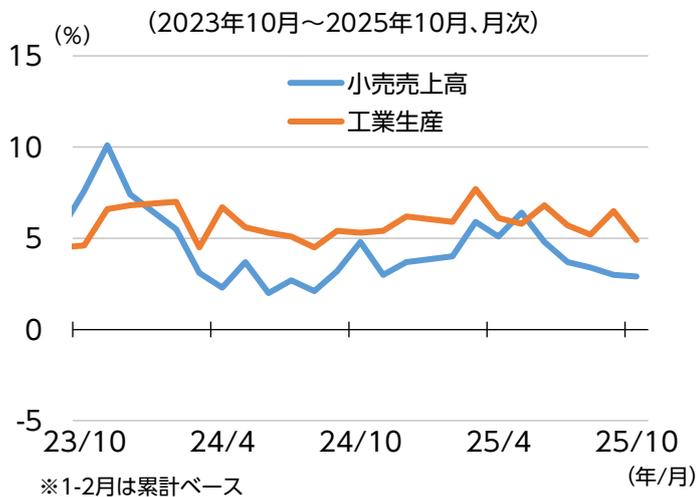
工場建設等を示す固定資産投資は、情報サービス業や航空宇宙機器製造業などでプラス成長が見られたものの、年初来累計で前年同期比▲1.7%と、市場予想の同▲0.8%を下回りました。前月の▲0.5%からもマイナス幅を拡大し、2カ月連続の前年同期比マイナスとなりました。一方で、不動産投資は同▲14.7%(市場予想:同▲14.5%)と、前月の▲13.9%から、一段とマイナス幅を拡大しました。

◆今後の見通し

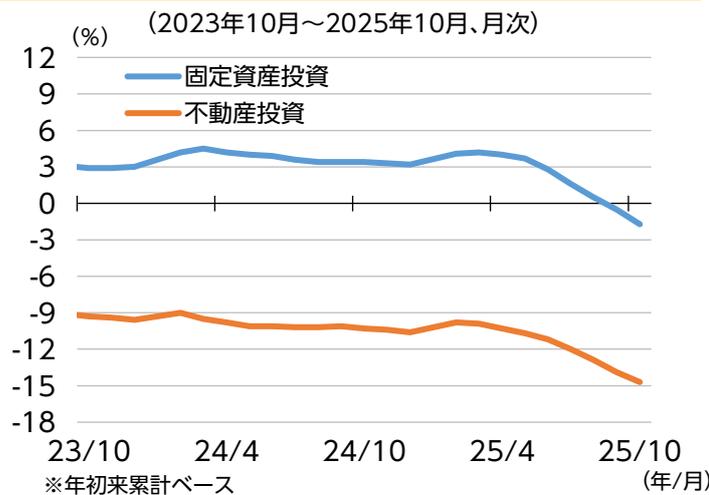
10月30日に開催された米中首脳会談では、習近平国家主席が米トランプ大統領と会談し、中国はレアアース(希土類)の輸出管理措置を1年間停止する一方、米国は中国に課した関税を引き下げることによって合意しました。このことにより、10月中旬に高まった米中関係の悪化懸念は、一旦は後退しました。今後の中国の輸出動向をみる上で、まずは前向きな進展と考えられるでしょう。

一方、10月の経済指標は、長引く不動産不況に改善の兆しが見られない中、内需の弱さが持続していることを改めて示す内容となりました。10月20日から23日に開催された中国共産党第20期中央委員会第4回全体会議(4中全会)では、2026年から始まる第15次5カ年計画の基本方針が決定されましたが、ここでも不動産不況をはじめとする経済の構造的な問題への具体的な対応策は示されませんでした。今後、これらの構造問題にどのように対応していくのか、引き続き、中国政府の動きに注目が集まります。

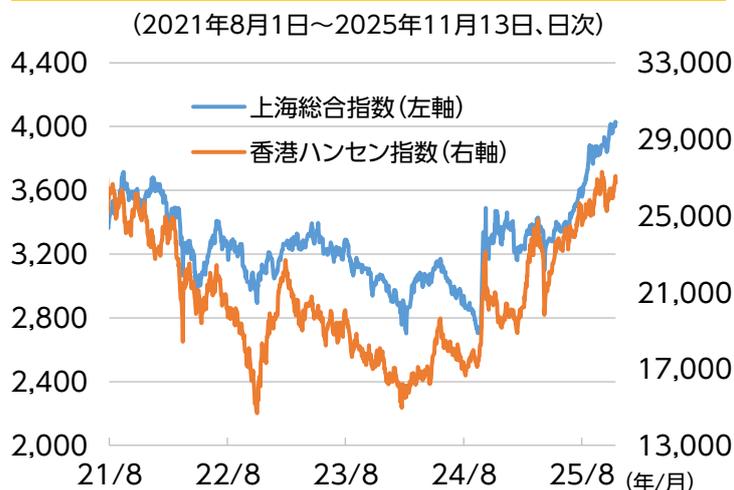
【図1】小売売上高と工業生産(前年同月比)



【図2】固定資産投資と不動産投資(前年同期比)



【図3】上海総合指数と香港ハンセン指数



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【投資に関する留意事項】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1. 購入時に直接ご負担いただく費用 (1) 購入時手数料 上限 3.85%(税込) (2) 信託財産留保額 上限 0.1%
2. 換金時に直接ご負担いただく費用 (1) 信託財産留保額 上限 0.5%
3. 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1) 信託報酬 上限年率 2.09%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4. その他費用 (1) 上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(*) 監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

◆設定・運用は



商 号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。